

重点 プロジェクト

あらお海陽スマートタウン(旧競馬場跡地) 整備事業およびスマートシティ推進事業

分類 まちづくり

総事業費 11,780,000千円寄附目標額 10,000千円

計画期間 地域再生計画の認定の日…2021年3月31日~2025年3月31日

数値目標 ●荒尾市が暮らしやすいと感じている市民の割合 ………80% ●居住誘導区域内の人口密度 ……………… 42.3人/ha

3 すべての人に 健康と福祉を







人・自然・新たな交流を育む拠点

荒尾市は今、2012年に閉鎖された競馬場跡地を活用し、全く新しいまちづくり に着手しています。跡地の広さは、約35ヘクタール。実に東京ドーム7.5個分です。 まちづくりのコンセプトは「ウェルネス」。誰もが安心・安全に居住・滞在でき、 まち全体が賑わいと活力に満ちた健康状態を持続した「輝くようにイキイキして いる」状態になるまちを目指し、歩みを進めているところです。

また、Society 5.0の実現に向け、AIやIoTなどの先進的技術を取り入れた



あらお海陽スマートタウンのイメージ図

スマートシティの取り組みにもチャレンジしています。2019年には国土交通省のスマートシティモデル事業「重点事業化促進 プロジェクト」、その翌年には「先行モデルプロジェクト」に選定されました。現在取り組んでいるのは、エネルギー、モビリティ、 ヘルスケア、防災・見守り、データ利活用の5分野です。

まちづくりのコンセプトであるウェルネス拠点を形成するため、街区ごとに土地利用方針を定めており、住宅のエリアの ほか、生活利便施設や公益施設、公園、緑地のゾーンがあります。公益施設ゾーンを中心とした「先進コアゾーン」には、市が 整備予定の道の駅や保健福祉子育て支援施設のほか、温浴施設、宿泊施設、運動施設、アウトドア施設などの民間事業者を 誘致する予定です。それぞれの施設を単独で配置するのではなく、機能連携・分担しながら、相乗効果で新たな価値を生み 出す「機能連携型ウェルネス拠点」の形成を目指しています。

重点 プロジェクト

市立図書館充実事業

教育

総事業費 116,537千円 寄附目標額 10,000千円

<mark>計画期間</mark> 地域再生計画の認定の日…2021年3月31日~2025年3月31日

数値目標 ●何らかの地域活動に参加している市民の割合 ……… 75% ●平均自立期間(日常生活動作が自立している期間の平均)

▲ 質の高い教育を みんかに



みんなに愛される多機能図書館を

2022年4月1日に市内の中心拠点にある商業施設(あらおシティモール) 内に荒尾市立図書館は移転しました。

新図書館は、「学びをつたえる図書館」、「交流活動とつながる図書館」、 「未来につづく図書館」の3つの柱を基本方針に子どもから高齢者に至る まで幅広い年代に親しまれる図書館を目指します。

デザインコンセプトは、『干潟の図書館』。館内は、ボウリング場だった跡地



洗練されたデザインの館内 佐藤振一撮影

を活用し、柱がなく、比較的低い書架を配置するなど視認性に優れています。また、おやこのコーナーは、船の形をした 書架や小代焼で作った干潟の生き物など子どもたちも楽しめるつくりとなっています。他に、全国の図書館では初めて となるデジタルライブラリーブースでは、最新のデジタルコンテンツを導入したり、市の歴史や文化、偉人等に関する 資料等(伝統芸能の衣装など)の展示も行っています。

充実事業としては、図書(紙の資料、電子書籍)の充実を行うほか、図書館が単なる読書の場ではなく、地域の交流拠点 や学びの場としての機能を持たせることで、モール内の他の店舗との相互の誘客を図るなど、市としての魅力を高め、 暮らしたいと思われるまちづくりを目指していきます。